

マーケットインに基づく業務用米の収量向上

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

近年生産者自らの判断による需要に応じた（マーケットイン）米づくりが強く求められているなか、JA レーク伊吹では、水稻品種「ゆうだい 21」の契約栽培に取り組みられることになりました。

平成 29 年産は、21 戸の生産者が 27ha 栽培されましたが、平均収量は 388 kg/10a と低く、さらに生産者ごとのばらつき幅が 300kg/10a と大きくなっていました。この原因は、この品種の生育特性が十分把握されていなかったことと、育成者である宇都宮大学で作成された栽培技術マニュアルが湖北地域にあっていなかったことが考えられました。

そこで、湖北版栽培マニュアルを作成し、これに基づく生産技術の実践と収量向上に向けた取り組みを支援しました。

【普及活動の内容】

（1）湖北版栽培マニュアルの作成と改良

平成 30 年産の結果から湖北版栽培マニュアルを作成し、令和元年産では、その検証と改良のため、基準ほを設置し生育追跡を行いました。あわせて、各生産者の生産履歴と収量結果を分析し、研修会を通じて改良点を生産者へ周知しました。

（2）湖北版栽培マニュアルに基づいた栽培支援

令和元年産は、26 戸の生産者で 33ha の栽培が行われました。湖北版栽培マニュアルに沿った栽培が実践されるよう、JA と連携し生育情報を発信するとともに、適期に中干しや穂肥施用、収穫作業が実施できるよう、ほ場巡回による現地指導を行いました。



写真 ほ場巡回による現地指導

【普及活動の成果】

湖北版栽培マニュアルでは、推奨する移植適期を 5 月前半とし、施肥は登熟後半まで栄養が維持できるよう基肥一発肥料と穂肥を施用する体系に改良することができました。

その結果、平均収量は平成 30 年産では 459 kg/10a と増加しましたが、令和元年産は 7 月の低温・寡日照や出穂期の台風による穂ずれにより 404 kg/10a となりました。一方、収量のばらつき幅は、台風の影響を受けた生産者を除くと 110kg/10a に縮小しました。

今後も栽培マニュアルに基づく生産が実践され、収量が向上するよう支援していきます。

◎対象者の意見

「コシヒカリ」と作期分散ができ、収穫適期幅も長く、刈り遅れによる品質低下が少ないので有望な品種です。引き続き栽培していきたいです（生産者 M、K）。